

カメは万年？ ～カメは人間より長生き！～



カメは長寿の象徴とされることが多いが、実際のところ、どのくらい長生きするものだろうか。実は、この疑問に答えるのはそう簡単なことではない。人間の世界と違って戸籍がないので、野生のカメの年齢を正確に知ることはできないのだ。

しかし、飼育下であれば、その個体の年齢は明らかである。上の写真は、英語科の北村先生のお宅で飼っている2匹の**ミシシippアカミミガメ(28歳)**だ。北村先生が産まれる前、先生のおじいさんが飼い始めた通称「ミドリガメ」がここまで大きくなったのだ。冬場は室内で飼うなど、大事に育てているようだ。こうした正確な記録(記憶)があるのは貴重であり、その中では、かなりの長寿記録と言えるだろう。空き缶と比べると、甲羅の長さは30センチ近い。重さはおそらく2キロを軽く超えているだろう。

カメの寿命は驚くほど長い。野生のカメの生態や行動などを研究している矢部隆先生(愛知学泉大学)によれば、ミシシippアカミミガメの寿命は、おそらく人間と同じくらいかそれ以上であるという(「カメの眼から見た現代社会」HPで検索すれば閲覧可)。つまり、生育環境が良ければ、50年、60年は当たり前、100年近く生きる個体もいるということらしい。北村先生のカメの場合、ここまで育ったのは生育環境が良かったと考えられるので、さらに50年以上生きる可能性がある。

1950年代後半から日本に輸入され始めた「ミドリガメ」は、1966年、お菓子の景品として、テレビで宣伝されたり、店頭で景品のサンプルとして展示されると大流行になった。一説には、年間100万匹以上が輸入されていたとされている。(朝日新聞社「動物たちの地球」第5巻より。右の写真も)

当時の個体が今も生き残っていると考えると、日本にいる「ミドリガメ」の最高齢はおよそ50歳ということになる。

どうやら、カメを飼う*ということは、「**人生をカメと共に暮らす**」という選択をすることらしい。

*カメ全体がとても長生きです。



左：1966年の広告(森永製菓)。実際にはアマゾンには「ミドリガメ」は分布していない。右：空輸されてきたカメ。1969年、羽田空港の保税倉庫で(朝日新聞)。

